



このとい通信

排卵誘発剤のHCGは、 体に悪影響があるって 本当ですか？

おなかがジンジンして。私は出血が…。吐き気や下痢が続くのだけれど。などなど、ジネコには、HCG注射に関する質問の投稿がたくさん寄せられます。HCGは体によくないというウワサもあったりなかったり。いったいホントのところはどうなの？
浅田義正先生、教えてください。
(浅田義正先生：浅田レディースクリニック院長)

ミカンさん(会社員・32歳) からの投稿

今日でHCG注射をして5日目、おなかには妊婦さんのように膨れています。人に見せたら驚くであろうくらいは膨れています。先生から異常が出たら連絡するようにと言われてはいるのですが、異常なんでしょうか？

先生、受付にある質問ノートがハンパじゃありません！

「あれはみなさんの声の集大成。さまざまな意見や質問が寄せられます。みなさんが何を求めているのかを知る貴重な資料、私の財産です」
それにしても、治療の具体的な質問からスタッフの対応、スリッパなど備品に関することまで、とても幅広い意見が集まっていますね。その

すべてに先生が丁寧に答えていらつしやるので驚きました。この中には、排卵誘発剤HCGの不安を訴えているものもありました。同じような質問が、ジネコにもたくさん寄せられているんです。この投稿を見てください。
「HCGの副作用を心配なさっているんですね？」
はい。ミカンさんは、HCG注射の後、おなかがパンパンになって、便秘もひどいと。

「HCGは排卵をうながし、卵巣に作用して黄体ホルモンを出させます。黄体ホルモンは、受精卵を迎え入れるために、子宮の収縮を抑える作用があるのですが、同時に胃や腸の運動も抑える。だから便秘になりがちです」
それは、やっぱりHCGの副作用ということですか？

「まず副作用というものは、使用方法や量を守っても起きる、有害な作用ということなんです。その意味では、HCGに副作用はありません。だってね、HCGは、妊娠すると、体からものすごくたくさん出るんです。注射の何千倍もの量ですよ。もしも、HCGが有害だった



ら、妊娠中、みんな大変なことになってしまう」
なるほど：HCG自体が有害なわけではないと。

「ええ。黄体ホルモンが増えて、一時的に妊娠状態に近くなるための影響です。妊娠とかいうのは、実際に体にとっても負担をかけ、不調もいろいろ起きる。でも、ホルモンのせいもあり、気分はハイなので、調子の悪さが案外気にならない。その妊娠と同じような状態になり、そこに生理がきたりすると、がっかりして、上がった気持ちさがドーンと落ちる。黄体ホルモンが急に減って、便秘が下痢になったりもする。精神的なこともあり、体の変調が、何倍にも増幅されて感じてしまうのです。」
では、卵巣が腫れるというのは、どうしてなんですか？

「普段排卵しない人が、HCGでしっかり排卵すると、卵巣の壁が破れるせいで、ジンジン痛むことがあります。刺激で腫れることもあります。しかし、異常に腫れる場合は、体質によつてごくまれに起こる卵巣過剰刺激症候群の可能性もあるかもしれません。ミカンさんのドクターがおっしゃるように、すぐにクリニックで診てもらってください。放っておくと脳梗塞や心筋梗塞になる危険性もあります。とにかく不安なことがあれば、なんでもドクターに相談することが大事です。」
ミカンさんも、この投稿の後、病

院へ行き、問題ない範囲と言われ、ほっとしたようです。
「専門のドクターのもとで、きちんと処方されるHCGが、身体に悪影響を及ぼすことはありませんから、安心してくださいね」

妙泉堂薬局からのアドバイス

HCGやHMG、クロミッドなどの合成ホルモン剤を服用して起こりやすい副作用の一つは血栓などの血流傷害。東洋医学では「お血」と考えます。このお血の予防として温陽活血（身体を温めながら血液をさらさらにする）漢方薬を。卵巣が腫れて起こる過剰刺激症候群には、消炎、解毒作用の強い、タンポポ茶「ショウキ」を併用することで、これらの副作用を予防することができます。同時に卵質も上がるのでお奨めです。

体外受精へのステップアップ、どのタイミングで決心したらいい？

さゆりさん（主婦・37歳）からの投稿

現在、A-IH6回撃沈しています。先生からは、早めに体外受精にステップアップしたほうが…と言われています。ですが、なかなか勇気が出なくて…。同じ年齢のみなさんは、こんな悩みありませんか？

日本で体外受精が始められて20数年がたった今でも、そこに踏み切るには、勇気がいるのが現実です。いつ決心したらいいのか、

そうまでする必要があるのかと迷う声が、たくさん寄せられています。

「ええ、それはわかります。でも、結論を言えば、一般不妊治療を1年続けて妊娠しなかつたら体外受精をとというのが私の考えです」

1年というのは、投稿にコメントを寄せているゆうこさんたちと比べると短いですね。「この方たちは、とても大変でしたね。だからこそ、私は、なぜ人工授精を何度しても妊娠しないのかを考えてほしいと思うのです。」

夫婦とも何も異常がなければ、80%のカップルが1年以内に自然妊娠するのですよ」

ジネコのアンケートでは、A-IH3回以下で妊娠できた人はわずか27%です。ユーザさんの3人に1人は、7回以上続けています。

「A-IHの妊娠率は1回あたり10%以下と低いのが現実です。これは、やはりカップルのどちらかに何らかの異常があるということを示唆しています。原因不明のまま、時間ばかりかけるのは賛成できません。おおよそ目安として、35歳以下の方ならA-IHは6回くらい。それ以上の方なら、同じ治療は3回まででステップアップを考えてください。」

タイミングや排卵誘発など順番にやっていけば、あつという間に1年が過ぎてしまいます」

なぜ体外受精なのですか？

「本当の不妊原因がわかるからです。最初の体外受精で3分の1のカップルが妊娠しませんでした。この方たちは卵管が正常に機能していなかったため、A-IHでは妊娠しなかった。体外受精は卵管を使わないで妊娠する方法ですからね。もう3分の1は受精はしたけれど、初回では着床しない例。この場合、凍結胚移植が有効です。37歳以下の場合、3回目ま

での胚移植で約7割が妊娠します。最後の3分の1については、受精率が悪い、良質卵が採れないなど、体外受精によってそれぞれの原因がやつと明らかになるのです」

では人工授精をせずに体外受精というのもありだと。

「いいと思います」

自然妊娠ですとチャレンジしてきた方が、どの時点でステップアップするかという質問は、当店でも最も多い相談の一つです。その時必ずお話しするのは、どれだけ西洋医学の優れた方法を利用するにしても、生命力の強い卵子を作り、子宮の中で赤ちゃんを育ていくのはお母さんの身体そのものであるということなんです。つまりお母さん自身の生命力、命を育んでいく力が十分に備わったときこそが、もう一段新しい方法にチャレンジするときではないでしょうか。

体質にあった漢方薬でしっかりと体作りを！
そして漢方治療をしながら妊娠されたお母さんが共通して言われること。それは赤ちゃん自身がとても元気で丈夫だということ。

妙泉堂薬局からのアドバイス

それが当店の大切な自慢の一つなんです。（質問は投稿サイト情報誌ジネコより抜粋）

